

第3次「北陸・東北路」トコトコ道中記

山形県・秋田県・青森県の旅《後編》

高鍋 学

※注『— 歩き、～ 飛行機、… JR/バス』

⑫11月7日（土）雨→晴 秋田駅 … 土崎駅 — 羽後飯塚駅 — 八郎潟町 24km

今日の距離は 30km の予定だったが、昨日土崎駅から秋田市内の間 6km を歩いたので、今朝は電車で土崎まで行って出発した。

朝は 1 時間ほど雨だったが、あとは晴れ。日が照ると暑くなり、汗をかかないようにシャツの袖を上げ下げしながら体温調節をする。

土曜日で国道 7 号は空いていたが、他に歩き良さそうな道があったので行ってみた。歩道の広い新しい道路で小泉潟公園の脇を通る静かな道だった。得をした気になる。

今日のコースの中間、大清水交差点にあるファミリーマートの広いイートインで、三角のミックスサンドとおにぎり 1 個の昼食をとる。暖かく、しかも椅子で食べられるイートインは

ありがたい。水は宿でペットボトルに詰めたもの。飲物といえば、以前、四国遍路で 2 週間一緒だったアメリカ人のレイモンは、1 リットルのパック入り牛乳に宿のインスタントコーヒー粉末を入れ、それを毎日手に持って歩いていたのを思い出す。

八郎潟町の手前で、玄関先にいたおばさんに（後で 77 歳と分かったが、同世代を「おばあさん」とはどうも呼びにくい）、この辺は雪が多いかと尋ねると、山沿いほど多くはないとのこと。話のながれで、今年 1 月、元気だった夫が急に気分が悪いといって吐き、それが肺に入り誤嚥性肺炎で亡くなったという。救急車で病院に着いたときには意識はなく、医者から、肺の中を吸引しても後は植物人間になります、と説明されて吸引はしなかったという。そのことに心の整理がまだついていないようだった。ご主人はきっと分かってくれていますよ、と言って別れた。

16 時半、八郎潟駅前の宿に到着。近くには干拓地大潟村に入っていく、村道大川線の入口がある。

宿は「佐藤旅館」朝付き、4,100 円。りっぱな和食の朝食付きでこの料金は安く、いつもより 30 分早い 6 時半の朝食も快く準備してくれ、発つとき缶ジュースをいただく。

⑬11月8日（日）雨→晴→雨 八郎潟 — 水路の堤防下 — 大曲交差点 — 能代市浅内 28km



午前中は八郎潟「東部承水路」の外側堤防下の農道を通り、午後は国道7号を通った。承水路（しょうすいろ）とは、干拓地に流れこんでくる水を、干拓地の外に排水して集めた水路のことだ。承水路の水位は淡水を保つために海面より高くしてあり、水位はポンプで調整している。

干拓地大潟村の中は通らなかったが、村に入る道路を入り口から見ると一直線で先が見えない。

堤防下の農道で出会ったおばあさんに、承水路の外の農地と大潟村との関係を尋ねた。外の農地は、
＜東部承水路・堤防・農道＞
八郎潟干拓による漁業者への漁業補償として分譲されたもので、自分の家もここに田んぼを5反ほどもっている。しかし、5反では機械を入れると採算があわず、高齢にもなったので今は人に貸していると言っていた。

堤の土手に赤とんぼの大群が飛んでいて、よく見ると全てつがいだった。何百というつがいの大群見たのは初めてだ。

午後、国道に入ってから雨が降り出し、暗くなって大荒れとなった。途中、車をはねた水で全身ずぶ濡れになり、耳の中にまで入った。これで2度目だ。今日は鎮痛薬を飲み忘れて股関節が痛み、後半は雨もかさなって疲れた。

宿に入る前にコンビニで食料を買う。夕食の幕の内弁当に豚汁。朝食のおにぎり2個と味噌汁とヨーグルト。ほかに野菜ジュース、バナナ2本。疲れと食料の重さで、宿までの1kmが遠かった。

宿は「民宿さかえ」素泊り、4,100円。民宿なのに大きな風呂とサウナまであり、館内は整理整頓され清潔だった。部屋の畳でストレッチをする。

⑭11月9日（月）みぞれ→曇り 能代市浅内 — JRに沿った道 — 能代市二ツ井 26km

昨日はしんどかったので、リュックの重さを100gでも減らそうと、長袖Tシャツを1枚、予備の単4電池3個を宿に捨て、持っていたミカンを食べてしまい、水もペットボトル半分に減らした。

天気予報を観て、ズボン下をはき、下着シャツを2枚重ね、ダウンを着て、足カバーを付け、カップも着た。鎮痛薬も飲んで出発。

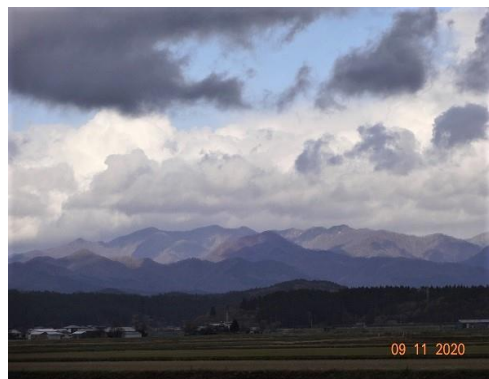
今日から日本海を離れて東の内陸方向に進路をとり、米代川に沿って大館市をめざす。

出発して間もなく、予報どおり突風とみぞれ。郊外の中学校の校門前に、生徒を送ってき

た保護者の車がたくさんあった。いつものことだろうか、急な嵐だったからだろうか。

今日のコースは、国道7号に並行した静かな旧道だ。JR奥羽本線に沿っているので、鶴形駅で昼食をとり、富根駅で休憩した。寒いので助かった。

宿は「きみまち坂 壱ノ座」素泊り、5900円。民間経営の風呂と宿泊施設。開業して8年。風呂は近隣の人々に利用されている。



＜白神山地＞

⑮11月10日（火）あられ→曇り ニツ井 — 道の駅たかのす — 大館市 30km

7 時に出発して直ぐにあられが降り始め、あっという間に道が白くなった。靴底の凹んだ部分にあられが氷になって盛り上がり、歩きづらい。地面にこすりつけて落として、3〜4 歩あるくと直ぐ盛り上がってくる。ずいぶんくり返したが、なぜか全て右靴だった。午前中は目まぐるしく天気が変わり、午後はおおむね晴れた。

昨日と違って今日は国道の他に道はない。昼前「道の駅たかのす」に着いた。中に「大太鼓の館」という建物がある。入ると、直径 3.71m の巨大な和太鼓が展示されており、「牛の一枚皮を使った世界一の和太鼓として、ギネスブックに認定されている。」とある。牛は特別に大きく育てたホルスタインで、胴は秋田杉を使った桶（よせ木造り）と書いた。



<振り返ると>

太鼓は地元の神社の雨乞い神事に使われている。始めは小さかったが、神事を支える二つの地区が太鼓の大きさを競いあい、とうとう、ギネス級の大きな太鼓ができたという。祭りにかける情熱はいつも同じだ。

道の駅を 12 時に出発して、17 時 30 分に大館の宿に到着。大館市は思っていたより街は広く、大きかった。人口 6 万 9 千人。

旅を始めて 2 週間が過ぎ、ようやく身体が慣れてきたように感じる。これまでの旅では 1 週間で慣れていたのに、今回は倍の日数がかかった。股関節の痛みもあるが、歳をとったこともあると思う。



<たかのす太鼓祭り・ネットより>

宿は「ロイヤルホテル大館」朝付き、GoTo 割引されて 4,940 円。朝食はよく、温泉の大浴場もあり、チェーンホテルとはひと味違った個性あるホテルだ。

⑯11月11日（水）晴 大館 — 釈迦内農免農道 — 国道7号 — 矢立峠 20km

昨夜、スマホでルートを詳しく調べると、途中まで国道を通らずに行ける道があった。釈迦内農免農道（しゃかないのうめんのうどう）だ。行くと、道幅の広い立派な舗装の道だった。

農免農道（農免道路）は、農林漁業用機械で使うガソリンにも課税されている揮発油税を、免除する「身替り」として作られた道路のこと。所管は国土交通省ではなく、農林水産省、とネットにある。

農道の多くは長閑だがスピード制限や信号がないので、場所によっては飛ばす車があつて危険な道もある。その場合は、歩道のある国道や県道の方を選ぶことになる。



<釈迦内農免農道>

小さな農道を歩いていると、ずっと先に黒い点がある。何だろうと思いながら近づいてみ

ると、黒猫だった。じっとうずくまったまま動かない。顔を見ると、老いか病気かは分からないが明日までもたないだろう。猫が人ごとならず思われ、そっと立ち去った。

散歩途中のおじさんに会ったので大館のことを聞くと、昔は亜鉛・鉛・銅などの鉱山町として栄え、1880 年ころまでは県内で秋田市に次ぐ人口があったそうだ。熊のことを聞くと、護身用に鉄火箸みたいな物を上着の袖の中から取り出した。こんなものが役に立つのか怪しく思ったが、私も急いでリュックから鈴を取り出した。

気持ちのよい農道を 10 数キロ行って国道に合流すると、258m の矢立峠まで緩やかな坂が延々とつづく。国道は広く、よく整備されていたので歩きやすかった。ただ、坂道で股関節に負担がかかったのだろうか、宿に着くころには酷く痛んだ。

宿は「大館矢立ハイツ」素泊り、GoTo 割引で 4,596 円。地域共通紙クーポン千円、電子クーポン千円付き。宿は第三セクターの経営。夕食はハイツのレストランできりたんぽ鍋を注文。料金 1,100 円は、千円の紙クーポンと現金 100 円とで払った。

⑩11 月 12 日 (木) 快晴 矢立峠 — 大鰐温泉 (おおわに) — 弘前市 28km

矢立峠で秋田県から青森県に入った。7 年前の東北の旅は、岩手県の二戸 (にのへ) から青森県の三戸 (さんのへ) に入った。青森県に入ると、どちらの川も北に流れていた。

矢立峠から青森側に入ると途端に道路が悪くなった。県境ではよくかける光景だ。天気は快晴、股関節は少しよくなり、下りなので快調に歩いた。下っていくと、東北自動車道の碓ヶ関



(いかりがせき) インターから出てきたトラックが町の中を金魚鉢の鯉のように走り、建物は疲弊していた。

大鰐温泉に向かっていると、腰の曲がったおじさんが、手押し車を押しながら後ろから追いついてきて、まんじゅうをくれた。農業をリタイアした 77 歳。男兄弟はみな東京に出ていき、近くに住む妹の所に行った帰りだという。龍飛崎まで行くというと、あと一週間かかる、とピタリと当てた。お互いに「元気でね」と言って別れた。

大鰐温泉の駅の待合室で、昆布と赤飯のおにぎりと、飲むヨーグルトの昼食。温泉街は閑散としていて寂しかった。



<遙かに八甲田山>

大鰐温泉から弘前へは国道 7 号を通らずに、羽州街道を行く。遠くに八甲田山、左手に岩木山がだんだんと大きく見えてきた。

宿は「アートホテル弘前シティ」朝付き、新じゃらんポイントで 3,904 円値引きされ 6,680 円。地域共通クーポン 2 千円付き。旅行サイトのポイントを使うと、GoTo の値引きはないようだ。これまでのトコトコ道中で、こんな宿泊料の高いホテルに泊まることはなかった。

⑪11 月 13 日 (金) 晴→雨 弘前 — 岩木川土手 — 県道 339 号 — 五所川原 27km

弘前市街の大通りを抜けて岩木川の土手にた。土手を 10km ほど下流に歩いてから県道 339 号に入り、五所川原に向かう予定だ。土手はきれいに舗装されて広く、一般車は乗入れ禁止。

右後方に八甲田山を遠望し、左に岩木山の偉容が迫り、左右の土手下にはリンゴ畑が延々と続いている。贅沢な道中だ。サンつがるの収穫作業があちこちで行なわれていて、聞くと今年は台風がなくて作柄はよいが、



＜岩木山とりんご畑＞



＜サンつがるの収穫＞

値は安いそうだ。
昼食を買っていなかったので困っていると、運よくそば屋を見つけて天ぷらそばを食べた。午前中しんどかったのは空腹のせいだったのだろうか、そばを食べると急に元気になった。天気予報を聞いていたので、そば屋を出る前に雨具を付けたのは正解だった。

今日の所要時間は 10 時間 40 分。18 時 15 分に宿入りした。歩数は 53,500 歩。

宿は「ホテルサンルート五所川原」朝付き、GoTo 割引で 4,485 円、地域共通紙クーポン千円。サンルートホテルの中でも歴史あるホテル。レストランの対応がよかった。

⑩11 月 14 日（土）曇り 五所川原 — 県道 339 号 — 太宰治記念館 — 中里 20km

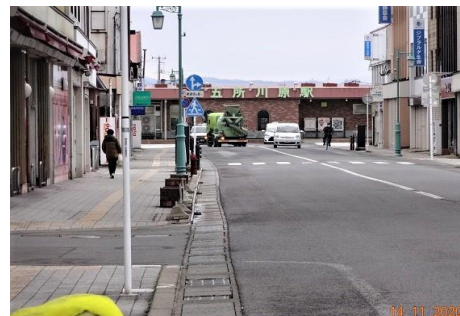
宿を出てすぐ岩木川の土手に行ってみたが一般道になっていて、道は狭く路肩もない危険な道だ。寒風がさえぎる物もなく吹き荒れている。敬遠して県道 339 号を歩くことにした。昨夜は寝るのが 23 時になってしまい、寝不足でしんどい。

県道の途中に大きな店構えの馬肉専門店があった。この地方は馬肉を食べる習慣があるのだろう。歩いていると車が止まり「この辺に肉屋さんはないか」と尋ねられたので、先ほどの馬肉屋を教えた。

金木町で太宰治記念館「斜陽館」に寄る。何人が観光客がいた。太宰の根強い人気を、国指定重要文化財の屋敷が支えている。建物は太宰治の父、大地主の島津源右衛門が明治 40 年に建てたもの。治が勉強部屋に使っていたという部屋の襖に漢詩が書いてあり、詩は読めないが最後に「斜陽」という字があった。

津軽鉄道の終着駅、中里で宿をとった。

宿は「福助旅館」夕朝付き、6,500 円。話し好きで明るいおかみさんは、夕食に 1 時間つきあってくれた。そろそろ息子の嫁に旅館を任せ、若いフィーリングで宿を改革してもらいたいらしい。出発のとき、おにぎりをもたらった。



＜JR 五能線 五所川原駅＞



＜太宰治記念館 斜陽館＞

⑪11 月 15 日（日）快晴 中里 — やまなみライン — JR 大平駅 … 蟹田 22km

始めの計画では、中里から日本海側の小泊へ行き、そこから龍飛へ向かうつもりだった。しかし役場に電話すると、龍飛への道路が閉鎖になる時期だということで計画を変更し、中里

から「やまなみライン」を通過して東の陸奥湾側へ行ってから、龍飛へ向かうことにした。

山沿いを通るやまなみラインは、険しく雪もある山道ではないかと心配したが、この日は暖かく、道は広くて車は少なく、高低差も小さく、歩きやすい道だった。なぜこんな所に立派な道があるのか疑問に思っていたところ、後になって、森林鉄道の跡地と分かった。沿道には下北半島と同じように、すすきが多かった。

やまなみラインを通過して JR 津軽線大平駅（おおだい）まで歩き、そこから電車で宿のある蟹田（かにた）へ向かった。

宿は「佐々木旅館」夕朝付き、7,840 円×2（泊）。陸奥湾に面した宿で、海から昇る太陽が美しかった。翌日は 7 時 6 分の電車に乗るので、朝食は弁当にしてもらった。



<やまなみライン>

②11 月 16 日（月）曇り→晴 蟹田 … 大平駅 — 今別 — 三厩駅（みんなや）… 蟹田 20km

蟹田駅から電車で大平駅に戻って出発。リュックは不要な荷物を宿に置いてきたので軽く、県道 14 号の道はよく、156m の峠もあったが、思ったより楽に歩けた。峠を越えて山間部を抜けると青森県側新幹線の最北駅「奥津軽いまべつ駅」がある。ここで在来線の「津軽二股駅」と連絡している。三角サンドイッチとおにぎりで昼食。



<新幹線 奥津軽いまべつ駅>

山間部を過ぎ、今別の町に入ってから西に向きを変えると流石に風が強い。津軽海峡に沿った坂の多いバイパスを通過して三厩駅に到着。津軽線の終着駅なので、鉄道ファンを何人か見かけた。宿がないので、電車で蟹田まで戻る。

宿の主人は川柳の有名人。旅館の箸袋に「道草の好きな子 風の子になれる」岸柳、とあった。おかみさんからお土産に「津軽弁の日」という、長年続いているイベントの CD をいただく。津軽弁の大らかさとユーモアに笑った。

②11 月 17 日（火）晴 蟹田 … 三厩 — あじさいロード — 東風泊 PA（やませどまり） — 国道 339 号 — 龍飛崎 14km

今日は歩きの最終日。海岸線沿いの国道と並行して、山側に愛称「あじさいロード」があり、7km ほど歩いた。道は一部狭い所があり、アップダウンも多いので車の多くは国道を通過しているようだ。愛称のとおり、大きな紫陽花が道の両側にビッシリ植わっている。それが 14km も続くのだから、花の時期は壮観だろう。



<あじさいロード>

散歩中のおばさんが、この時期にこんなに良い天気は記憶にないと言っていた。熊はいないが、

猿がたくさんいるとも教えてくれた。

途中に「義経北行伝説」の義経寺があった。源義経は奥州平泉の衣川で自刃したといわれているが、龍飛まで逃れてきてここから海峡を渡って蝦夷へ向かった、という伝説の地に建てられている。

アップダウンはあったが快適にあじさいロードを進み、龍飛崎へは遠回りとなる地点で国道に下りた。

13時、旅の目的地である龍飛崎に無事到着した。

ホテルは龍飛崎の丘の上にあり、チェックインの時間まで、石川さゆり「津軽海峡冬景色歌碑」でスピーカーから流れる歌を聴き、灯台や展望台に上って、対岸の北海道や海峡を通る船や漁船を眺めて過ごした。残念だったのは、海面下140mに下がる青函トンネル記念館がコロナで休館だったことだ。

宿は「龍飛崎温泉 ホテル龍飛」夕朝付き、GoTo 割引で10,820円。地域共通紙クーポン2千円付き。宿はここしかなく、温泉と海峡が一望できる好立地とで人気がある。貸し切りバスが何台か止まっていて、阪急交通社のツアーも来ていた。

㊤11月18日(水) 晴 ホテル龍飛・・(ホテルの送迎バス)・・青森市

ホテルの無料送迎バスを利用して青森市街まで約1時間40分、昼前に着いた。八甲田山に行きたかったが、ロープウエーがコロナで休止と聞いたので、「棟方志功記念館」に行った。はがきと一筆箋を買う。

昨日、龍飛崎に到着して以来、なぜか歩くのがしんどい。気が抜けたのだろうか、今日も棟方志功記念館まで3kmほどの距離をのろのろと歩いた。

宿は「アートホテル青森」朝付き、GoTo 割引で5,096円。クーポン千円付き。アートホテル弘前と同系列。朝食はよかった。

㊤11月19日(木) 晴 青森市・・(シャトルバス)・・青森空港～伊丹空港

最終日、青森市森林博物館を訪れた。明治41年に建てられた旧青森大林区署(のちの青森営林局)を整備して博物館としたもの。堂々とした建物は、林業が重要産業であったことを物語っている。

展示パネルに、津軽半島の木材を搬出するために敷設された鉄道の地図があった。網の目



<龍飛崎温泉 ホテル龍飛>



<自衛隊レーダー・津軽海峡・対岸は北海道>



<「津軽海峡冬景色」歌碑の前で>

のように張り巡らされていた鉄道の主要路線は、太宰治記念館がある金木あたりから北上し、半島を横断する現在のやまなみラインを通して陸奥湾側の蟹田に到り、そこから青森市まで下る。「U」を逆さまにした形に敷設されていた。やまなみラインが立派だったのは、森林鉄道の跡地でしかも幹線だったからだ。

八甲田山には行けなかったが、空港からよく見えた。青森空港 17 時 25 分発の全日空で伊丹空港に到着。20 時過ぎに帰宅した。毎日 30km 足らずの距離を 10 時間ほどかけて歩いていたのに、青森から西宮の自宅まで 800km 余りを約 3 時間弱で帰ってきた。

■旅を終えて

<データ>

日数：23 泊 24 日 距離：476km 歩数：957 千歩

経費合計：190 千円（宿泊費 114 千円、交通費 41 千円、食費ほか 35 千円）

（注）クーポン券合計 8 千円は宿泊費に充当。交通費は仙台行の航空運賃 2 席分を含む。

<感想>

60 歳から始めたトコトコ道中は 14 年間で約 7,000km になった。兄弟から「あんたにそんな趣味があったとは知らなかった」と言われ、知人からは「エッ！まだやってんの」と言われ、自分でも「よくもマア飽きもせず」と思う。

何が面白いのか、とよく尋ねられる。答えは、歩くことそのもの、一期一会の出会い、自然を体感する、達成感、町や集落の佇まいや人々の暮らしを眺めながら、地域の歴史・経済・社会に思いを巡らせること、などだが、それらがミックスされた何かだろう。

今回は体力の衰えを感じ、股関節の痛みも重なってしんどいトコトコ道中だった。それでも踏破できたのは妻のおかげだ。痛くて、妻に「もうこれ以上歩けない」と電話をすると、「歩けなければ電車やバスを利用すればよし、とにかく計画通り 24 日間楽しんでください」と励まされた。一瞬「帰って来ないでね」と聞こえたが、気のせいだ。

今年のトコトコ道中で体力に自信を失い、旅はもう出来そうにないと思っている。ただ、「まだ行っていない県が、茨城県・千葉県・鳥取県・島根県・長崎県・佐賀県・大分県など 7 県もありますよ」と妻が言っている。



<ホテルの窓から 秋田港>

【おわり】